

総務副大臣が黒潮町を訪れました

原田憲治総務副大臣が2月4日（土）、黒潮町を訪れ、地域おこし協力隊の活動への激励および「車座ふるさとトーク」を行いました。

津波避難タワー見学

副大臣は同日午後、大方あかつき館裏手にある浜の宮地区津波避難タワーを視察し、町役場の防災担当職員からタワーや備蓄倉庫の説明を受けました。



備蓄倉庫を見学する原田氏(右)

地域おこし協力隊へ激励

その後、保健福祉センターへ移動し、地域おこし協力隊への激励を行いました。現在黒潮町で活動する協力隊は5人。その内当日出席した4人は町長からの紹介を受け、それぞれの活動内容や移住をした理由について話しました。高齢化が進む地域における集落活動センターの立ち上げや、人口減少対策としての移住促進など、黒潮町が抱える課題に現場で向き合う4人の話は、活き活きとし力強いものでした。

副大臣は、「黒潮町が大好きと

いう気持ちで伝わった。今後も地

域外の視点

からまちお

こしへ貢献

してほしい」

と今後の協

力隊の活動

に期待を込

めました。

車座ふるさとトーク

各テーマについて関係者の生の声を聞き、今後の国の政策に活かす目的で実施されている「車座ふるさとトーク」。今回の訪問では、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化」と題し、町内の防災関係者12人が副大臣を囲んでトークをしました。



激励の言葉を受ける協力隊4人

消防団員の浜田康太郎さんは、

「団員は地域の防災リーダーとして活動しているが、若い世代の団

員確保が難しい」と消防団としての課題を呈しました。また、昨年

開催された高校生サミットで議長を務めた2人からは「議長を引き

受けて本当によかった。津波のことについてよく話し合うようにな

った」と報告がありました。

12人がそれぞれの立場から防災

に対する思いを語り、副大臣は、「行政の声かけとそれに対する住民の反応が確立されている。貴重な意見を今後の政策に活かしていきたい」と話し、全体トークが終わった後も参加者の声を聞いて回りました。

副大臣を囲みトークをする様子



副大臣を囲みトークをする様子



泉彩里、前田浩文、杉本正守、嶋津淳三、金子雄一、浜田康太郎、森岡健也、岡村佐恵、篠田公香、今村琳花、原田憲治、大西勝也、今井忍、明神里寿（左上→右上、左下→右下の順、敬称略）

福祉避難所開設・運営訓練

黒潮町福祉避難所協議会が昨年12月10日、シーサイドホームで福祉避難所の開設・運営訓練を行いました。福祉避難所とは、一般の避難所では生活に支障がある人に配慮がされた避難所で、町内7事業所と協定を結んでいます。

訓練には福祉事業所や行政職員のほか、有井川地区などの近隣住民85人が参加し、避難所の開設から避難者の受入、閉鎖までの一連の流れを確認しました。また、施設に整備している災害時用トイレやエアベッドを参加者で組み立てるなどし、最後は全員で訓練の振り返りを行いました。

避難所運営は、住民の皆さんの協力が必要であり、今後も施設と地域が一体となった訓練をしていきたいと思えます。



避難所の受付訓練



要配慮者の受け入れ訓練